



クマの生息地における安全な旅

カナダの山岳地帯に広がる国立公園には、グリズリーやブラックベアが生息しています。そのため、街に近い人通りのあるトレイルでも、人里離れた片田舎でも、このあたりではクマに出くわす可能性があります。通常、クマは人間を避けたがるものですが、それでもクマと人間が遭遇するケースは発生しています。



M.オークス

クマとの遭遇を避ける方法を知っておくことが、公園を安全に楽しむための最善策です。万が一クマに遭遇した場合でも、クマの行動を知っていることが重要です。クマとの遭遇時にどのような行動をとるべきかは、クマとの遭遇の仕方によって変わってきます。



クマと人間

クリスチナ



Canada

クマを見かけたら

立ち止まって、冷静さを失わないように努め、クマよけスプレーを使う準備をしましょう。走って逃げ出しはけません。

注意事項：
クマが人間の存在に気づいていない場合：
クマの気を引くことがないように、その場から静かに離れましょう。

クマが人間の存在に気づいている場合：
クマは、突進してきて最後の最後に背を向けることがあります。これは虚勢を張って逃げ出すための行動です。また、唸ったり、顎を鳴らしたり、耳を後方に伏せたりして、防御的な反応を示すこともあります。

落ち着きましょう。 落ち着いた行動をとれば、クマを不安にさせずにすみませう。叫んだり、突然動いたりすると、クマの攻撃を誘発してしまうことがあります。

クマに話しかけましょう。 落ち着きのある毅然とした声で語りかけます。こうすることで、あなたは人間であり、餌となる動物ではないということをクマが認識できます。クマが後ろ脚で立ち、鼻を動かしていたら、それはクマがあなたが何者なのかを識別しようとしている証拠です。

ゆっくりと後ずさりしましょう。 決して走らないでください。走るとクマに追いかけるおそれがあります。

自分を大きく見せましょう。 小さな子供が一緒なら呼び寄せて、グループでかたまるようにします。

バックパックを落とさないようにしましょう。 防御に役立つ可能性があります。

先に進まなくてはならないときは、クマがいるエリアを大幅に迂回するか、安全な距離を保ち、クマが立ち去るのを待ちましょう。

クマよけスプレー

トレイルではクマよけスプレーを常に携帯し、取り出せるようにしておきましょう。使い方を覚えておくことも大切です。



S.シュニャック

クマよけスプレーは、適切に使用すれば効果を発揮します。風、スプレーの距離、雨、凍結温度、製品の使用期限により、その効果に差がでることがあるので注意してください。クマよけスプレーの正しい使い方（メーカーの特別な指示を含む）に慣れておくこと、スプレーをすぐに取り出せるようにしておくことも大切です。とはいえ、クマと安全に共存するための最善策は、クマとの接触を避けることに変わりありません。

クマが近づいてきたら

立ち止まって、冷静さを失わないように努め、クマよけスプレーを使う準備をしましょう。走って逃げ出しはけません。クマの行動を観察し、クマが近づいてきている理由を見極めます。

防御が目的の場合

授乳したり子グマを守ったりしている場合や、人間の姿に驚いている場合は、人間の存在を脅威だと捉えています。クマは不機嫌または興奮したように見え、声を上げることもあります。

自分が脅威でないことがクマに分かるよう振舞います。

落ち着いた声で話しましょう。

クマが前進するのをやめたら、その場所からゆっくり離れてください。

クマが近づいてくる場合は、立ち止まり、話し続け、クマよけスプレーを使います。

クマが接触してきたら、地面に倒れこみ、死んだふりをして、じっと横たわったまま、クマが立ち去るのを待ちます。

クマに遭遇しないようにするのがベスト

クマは、人間の活動に対して極度に敏感な生き物です。人間がクマに遭遇しないようにすることが、クマの暮らしを守ることに繋がります。

音を立てる

クマに人間が近くにいることを知らせましょう。特に、風の強い日や、小川、藪の中、ベリーの畑の近く、視界が悪いエリアでは、声を出す、手を叩く、歌う、大声で話すといった行動が有効です。クマよけの鈴は効果がありません。

最近までクマがいた形跡を見逃さない

足跡や排泄物、穴を掘った跡や木の幹を引き剥がした跡、ひっくり返された岩が見られるエリアには、クマがいたと考えられます。痕跡が新しいものだったら、そのエリアから立ち去りましょう。

犬には常にリードをつけるか、家で留守番をしていてもらいましょう。犬はクマに対して防御的な行動をとってしまうことがあるからです。

大人数で行動するほど、クマに遭遇する可能性は低くなります。ハイキングに出かける時は、4名以上のグループでまとまって行動しましょう。子供は決して1人で歩かせないでください。**正式な標識がある道またはトレイル**を、日中に歩くこと。

大型の動物の死骸を見かけたら、その場からすぐに立ち去り、パークス・カナダに通報してください。

流れの速い小川や、湖の深いエリアに魚の内臓の残骸があるのを見つけたら、川岸や湖岸沿いに近づかないようにしてください。

攻撃への対処

クマと遭遇しても、傷1つ負わずに終わることがほとんどです。クマが実際に接触してきた場合は、以下のガイドラインに従えば、その場を切り抜かれる可能性が高まります。一般的に、クマの攻撃には2通りのパターンがあります。

防御のための攻撃

最もよく見られるタイプの攻撃です。**クマよけスプレーを使います。**
クマが接触してきたら、死んだふりをしましょう。

そう、死んだふりです。うつぶせになり、脚を開き、手を首の後ろで交差させるような位置に置きます。この姿勢をとると、クマにひっくり返されたとしても衝撃を受けにくくなるほか、顔、頭と首の後ろを保護できます。クマがその場から立ち去ったことを確認するまで、そのままじっとしててください。

防御のための攻撃は、通常2分以内で終わります。


攻撃が続く場合は、防御のための攻撃から捕食のための攻撃へと意味合いが変わっている可能性があります。そうなったら、こちらも攻撃に出るしかありません。

捕食のための攻撃

クマがトレイル沿いに人間のあとをつけてきて、攻撃を仕掛けます。または、夜間に人間を襲います。ただし、この種の攻撃は非常に稀です。

建物や車の中に逃げ込むか、木の上に登りましょう。
逃げようがなくても、ここでは死んだふりは通用しません。クマよけスプレーを使い、攻撃に出ます。

そう、攻撃に出るのです。クマを威嚇しましょう。大声で叫ぶ、枝や石でクマを叩くなど、自分が簡単に捕食できる対象ではないことをクマに分からせましょう。このような攻撃を受けることは非常に稀ですが、実際に起こった場合、事態は深刻です。なぜなら、クマが探しているものは餌で、人間を捕食しようとしているからです。



覚えておきましょう
クマに襲われた場合の最善策を事前に考えておくことは非常に困難です。だからこそ、クマとの遭遇をいかに避けるかに注力することが重要なのです。

サイクリングとトレイルランニング

クマの生息地において、サイクリングやトレイルランニングは危険なアクティビティです。スピードがあり、音を立てることがないため、クマと突然遭遇するリスクが高くなります。

- 低木が生い茂るエリアを通るときや、見通しがきかない曲がり角ではスピードを落としましょう。
- 音を立て、グループで行動し、周囲に気を配り、前方を常に確認しましょう。
- 公園内のトレイルを走るときは、イヤホンをしないでください。

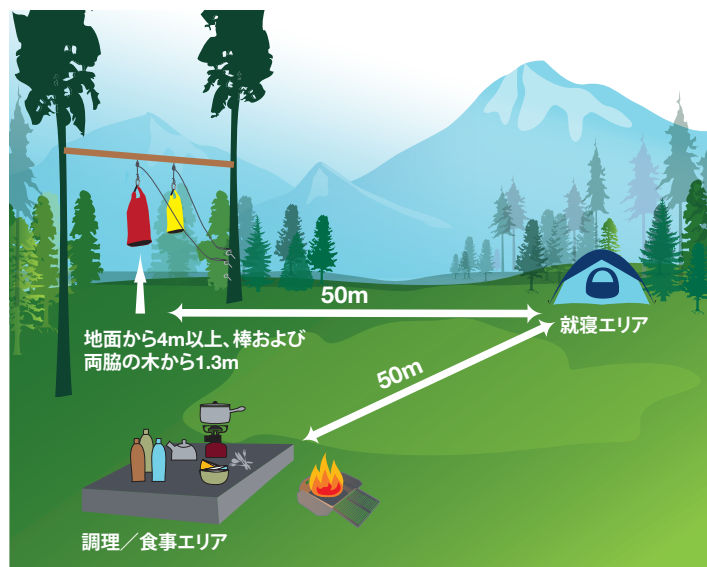


M.フィッツハートリック

田舎でのキャンプ

身の安全を守り、自然を保護するために、次の2点を心に留めておいてください。遭遇を避け、食糧、匂い、ゴミを管理することで、自然への影響を最小限に抑えましょう。

- 指定されたエリアがある場合、指定エリア以外ではキャンプをしないこと。
- 管理されていない場所でキャンプをする場合、調理、食事、食糧貯蔵エリアをテントから最低でも50m以上離れた風下に設置すること。知らぬ間に動物が近づいて来ることがないように、見通しを良くしておきましょう。流水の近く、藪の中、獣道、ベリー類の畑の近くでキャンプ、調理、食事をするのは避けましょう。
- キャンプの参加者およびキャンプ場を無臭に保つこと。寝袋、テント、寝巻きに食べ物、食べ物の匂いや飲み物が付着しないように気をつけてください。
- 香りの強い化粧品は家に置いてくること。トイレタリー用品や身の回り品は食糧と一緒に保管してください。
- 人間の食料、ペットフード、家畜の餌、生ゴミはテントから離れた場所に保管すること。キャンプ場指定された貯蔵施設を使用してください。管理されていないキャンプエリアでは、2本の木の間に棒などを渡し、地上から4m以上の高さ、棒および両脇の木から1.3mの位置に荷物を吊るしておくか、またはクマには開けることができない容器を使用します。



- 食器や調理器具類は使ったらすぐに洗って片付けること。食器を洗った水に残っている食べ物のかすは濾して、生ゴミと一緒にまとめてください。食器を洗った水は指定の場所または就寝エリアから50m以上離れた場所に捨てること。
- 生ゴミはまとめて持ち帰ること。燃やしたり埋めたり、穴を掘って作った屋外トイレに捨てたりしないでください。

クマを見かけたら

クマを目撃したり、クマと遭遇したりした場合は、パークス・カナダの係員に通報してください。

- バンフ、コートニー、ヨーホー：
パークディスパッチ 403-762-1470
- ジャスパー、マウント・レベルストーク、
グレーシャー：
パークディスパッチ 780-852-6155
- ウォータートン・レイク：
パークオフィス 403-859-2224

一般情報

pc.gc.ca にアクセスするか、パークス・カナダ・ビジター・センターまでご連絡ください



D.ラウラ

クマのサバイバルガイド

山岳地帯の公園の四季とクマの暮らし 春

クマが生存するためには、完全な生態系が必要です。山岳地帯の国立公園は、グリズリーやブラックベアにとって、北米に残る重要な生息環境です。しかし、クマにとって山は厳しい環境です。最低でも、質の高い生息環境、子供を育てるための安全な場所、障害や人間に極力邪魔されることなく自由に動き回れる行動圏を必要とします。

山の中で生きていくために、クマはどのような暮らしをしているのでしょうか。季節ごとに追ってみましょう。



クマの家族



イワオウギ



カタクリ

冬眠から目覚めたクマは、やせ細った体で、食糧が乏しい環境に出てきます。

高地には雪があるので、新緑を求めて、クマが渓谷の底に集まってきます。グリズリーベアは、地中に埋まる植物の根や球根を掘り出すために、雪崩の跡が残る、日当たりの良い山の斜面に向かいます。運が良いクマは、冬の間を命を落とした動物の死骸を見つけることができます。特に子育て中のメスのクマにとっては、貴重な栄養源になります。

オスは長距離を移動しながらつがいの相手を探します。

グリズリーベアのオスの繁殖能力は高いものの、メスの繁殖適齢期は5歳ぐらいまで訪れません。さらに、次の繁殖期がやってくるまで5～6年の年月を要します。食糧とつがいの相手を確認するため、オスの行動圏はグレートバンクーバー地域と同じくらいの面積に相当する場合があります。ブラックベアも、生息環境が貧弱だと繁殖率が下がります。

夏

雪が溶けると、植物が成長し、緑が豊かな場所を求めてクマの行動範囲が広がります。

雪崩が起きた斜面は、グリズリーベアにとって大切な場所です。餌になる植物が豊富にあり、森林の端で身を隠すことができるからです。森林に生息する種であるブラックベアの多くは谷底に残り、そこで食べ物を探し、グリズリーベアから身を守ります。

母グマは子グマへ愛情をたっぷり注ぎます。

ロッキー山脈に生息するグリズリーベアの子供は、山の中で生き抜くためのコツを身につけながら、5年間母グマとともに過ごします。グリズリーベアのメスは、支配的なオスやその他の脅威から子グマを積極的に守ります。ブラックベアは、大人のブラックベアのオスやグリズリーベアから身を守るために子グマを木の上に登らせます。



B. ストレイトベア



秋

クマは1日あたり最大 35,000 カロリーを摂取するようになります。

掘る、押す、こする、剥がすといったさまざまな手段を使って、食べ物を探し歩きます。クマが餌を探した場所には、ジリスや植物の根を求めて掘った大きな穴、昆虫を狙ってひっくり返した岩や木の株、実がきれいさっぱりになっているベリーの木の茂み(ピーク時期には1日最大250,000個のベリー)など、興味深い痕跡が残されます。注目すべきは、森の中の開けた場所でベリーを餌にしている点です。トレイル、道端、さらにはキャンプ場にもクマは現れています。

冬

脂肪が十分についているクマは、真冬の間に出産します。

ブラックベアとグリズリー、どちらのメスにも「着床遅延」と呼ばれる身体適応があります。子グマに授乳し、育てられるだけの脂肪を体内に蓄えていないと、受精卵が子宮に着床しません。出産は安全な巣の中で行います。体が小さく、まだ目が開かない子グマ(通常1～3頭)は、栄養たっぷりの母乳で育ちます。

冬の間でも、クマの姿を見かけることがあります。クマは本格的な冬眠をする生き物ではありません。気候が暖かい時期や、食糧を容易に手に入られるときは活動していることが知られています。



A. アスワル

種の生存

グリズリーベアの繁殖率は、北米のどの哺乳類と比べても最も低い水準にあります。個体数を維持するためには、出生数と死亡数のバランスがとれている必要があります。野生のクマの寿命は25年以上です。しかし、人的な要因により、多数のクマがその寿命よりずっと前に命を落としており、子孫の存続にかかわる事態になっています。



A. アスワル

厳しい環境

クマを取り巻く環境



S. ショウネン

隠れ家
安全な住処。



T. トロント

半分が岩と氷
半分は植物が残る貴重なエリア。



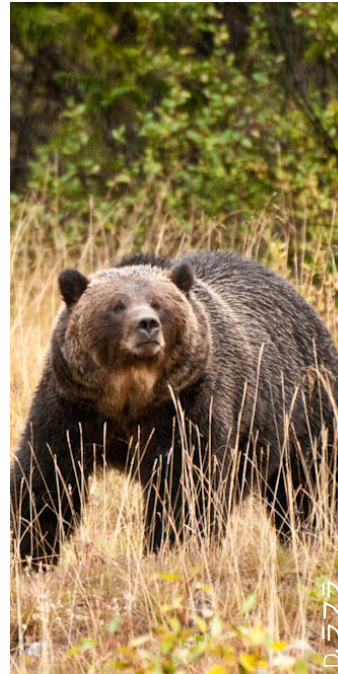
M. ミッド

季節ごとの食糧
点在する畑で確保します。



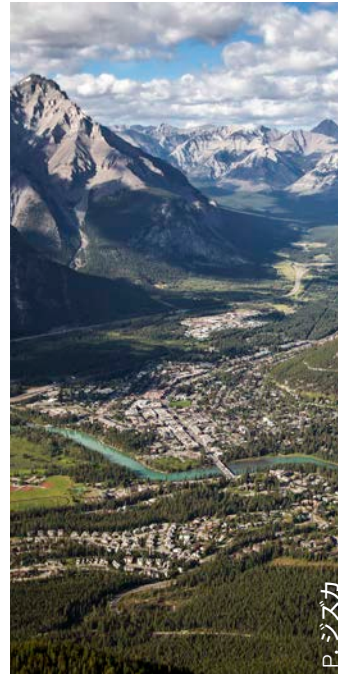
D. デン

ねぐらの候補
訪れる冬に備えて探します。



O. オフ

ほかのクマ
守るべき子グマ、山向こうにいるつがいの相手、ライバル。



P. プラス

人間
トレイル、道路、線路、町を避けながら移動します。

クマを守るためにできること

クマにとって一番良いのは、できる限り人間の姿を見せないようにすることです。

- 道端でクマを見かけても、止まらうとしない。
- すべての生ゴミは野生動物対応のゴミ箱に入れる。

- ピクニックやキャンプ場に、動物をおびき寄せるものを置かない。食料品、クーラーボックス、汚れた食器、資源ゴミ、バーベキュー用品、ローション類、ペットフードは車、トレーラー、または保管ロッカーの中に入れておく(クマ対応のテントではない場合)。

- 正式なトレイルのみを利用し、獣道には足を踏み入れない。

- 立ち入り禁止地区や季節ごとのトレイルの制限区域に入らない。どちらも人間の安全を守り、クマの大切な生息環境を保護するために定められています。

- クマに関する警告に注意を払い、アドバイスに従う。警告のあるエリア内を移動するときは注意が必要です。他のルートを選択することも考慮してください。



生ゴミは適切に処理



食糧や食品関係のものを保管



安全な車の中から観察

道端でクマの姿を見かけたら、止まらないで、スピードを落とす

クマには、冬を乗り切るのに十分な脂肪をつけるために、何にも邪魔されることなく餌を探し回れる環境が必要です。クマが厳しい環境の中で生きていくのに必要なスペースを確保できるようなドライブを心がけましょう。

常に次のことを守ってください

- クマの観察や撮影は、安全な車の中から行う。
- クマになれなれしく近づかない。
- クマに食べ物を与えない。

停車時に気をつけるべきこと

- 周囲の車の流れに気を配る。
- そのほうが安全だと判断した場合は、車を路肩に寄せる。
- ハザードランプをつけて、他のドライバーに知らせる。
- 少しの間観察し、すばやく写真を撮ったら走り去る。
- 交通渋滞が発生していたら、車を動かす。渋滞は人にもクマにも危険です。



A. アスワル



A. アスワル

クマが人間に遭遇したとき、クマはどのような行動をとる？

1. 移動経路を変更したり、そのエリアから去ってしまったりすることがあります。その結果、大切な生息場所が1つ失われることになります。

2. 攻撃的な反応を示す。通常、クマが距離の近さに驚き、脅威を感じている場合にのみこのような反応が現れます。人間とクマが遭遇することで、クマに死をもたらす、生態系の中のクマを失うことにつながる可能性があります。

3. 次第に人間に慣れる。人間と頻繁に繰り返し遭遇していると、クマは野生動物としての警戒行動をしなくなります。キャンプ場や都市計画地域など、食糧や生ゴミが適切に保管、処理されていない地域にクマが入ってくる可能性が高まります。